


保育園と児童館の一体運営から

見えてきたもの

石井 雅



品川区の子育て支援

の支援を通して、地域の子育て家庭に対する育児を支援しています。

品川区では、「子育て、親育ちを支援する」という基本方針に基づき、子育て支援を拡充・強化する政策を展開しています。その中で「在宅子育てを支援する拠点の拡充と情報の提供」を目的とし、家庭に引きこもりがちな親子が気軽に集えるように、地域子育て支援センターを整備し、子育て相談や子育て情報の提供を行うと共に、子育てサークルなどへ

その一環として、平成二十年度から、保育園と児童館を一体的に運営する「キッズ館」という、新たな地域子育て支援センターのしくみをつくり、就学前の親子を対象を特化した支援を行う施設が生まれました。

品川区には、一・二階が保育園、三・四階が児童館という施設が多くあります。「キッズ館」は施設

を新たにつくるのではなく、これらの既存の保育園と児童館を一体的に運営することで、保育園の保育・

子育てのノウハウを活かし、児童館を訪れる在宅子育てへ、より専門性の高い、きめ細かい支援を行うことを目的にしています。平成二十年度から毎年二館ずつ、二十二年度までに六館の「キッズ館」を開設する予定です。

東五反田保育園と東五反田児童センターも、計画のさきがけとして、平成二十年度から保育園園長が児童センター館長を兼務する形で、「キッズ館」となりました。今回は、保育園と児童館を一体的に運営する実践を紹介し、児童館を利用する在宅子育て世帯と保育園利用園児、双方へのメリットを考えたと思います。

「キッズ館」東五反田の置かれている環境

品川区立東五反田保育園・児童センターは、JR

山手線五反田駅と国道一号線桜田通りに隣接した、都会の真ん中にある複合施設です。

少し歩くと、皇后陛下のご実家だった「ねむの木の庭」がある閑静な住宅街ですが、建物の周囲はオフィスビルに囲まれ、決して自然に恵まれた環境とはいえません。保育園に通うために保護者と子どもは、駅前の繁華街や交通や人通りの激しい道を、しっかりと手をつないで登園してきます。園の規模は、定員78名と小規模ですが、周囲に待機児童が多く、その解消のために88名まで、入所定数の弾力化を図っています（平成二十一年度現在）。また、東五反田保育園利用者は、フルタイムの勤務の保護者がほとんどであり、いわゆる九時から五時の勤務に残業時間を加えた保育時間を保障するため、朝七時三十分から夜十時までの延長保育を行っています。

児童館利用者は、ほとんどが幼稚園に入園する前の親子です。バギーを押して、激しい往来を避ける

ようにやってきました。近隣は大企業の本社移転などで、その後に多くの高層マンションが建設されています。都市回帰現象というのでしょうか、小さなお子さんを連れられた親子が大変多く見受けられます。マンションを購入し転居してきた親子は、地域との交流がなく、孤立しがちです。近くに赤ちゃんとお母さんが集うような公園もなく、公園デビューをする場所にも機会にも恵まれません。児童館は、「屋根のある公園」とよく称されます。東五反田児童センターにも、このような多くの「新米ママ」と赤ちゃんが訪れています。

「キッズ館」での実践

「キッズ館」は、就学前のお子さんとその保護者にターゲットを絞り、事業展開するのが特色です。また、保育園のもっているノウハウや資源を有効に活用することが求められています。

さまざまな事業を行っていますが、代表的なものを紹介します（左ページ表参照）。

このほかに日常的な交流も行っています。先述しましたように、東五反田保育園に在園している子どもたちの保育時間は長く、戸外に出られない雨の日などは、園舎内だけで過ごしているとイライラしてくる子どもも多くいます。そこで、児童館に遊びに行き、保育園にあるおもちゃとは異なった玩具や遊具で遊んだり、児童館の遊戯室で身体を動かして遊んだりすることで、イライラ解消を図っています。狭い所に大勢の子どもが長い時間いる保育園にとって、雨の日の児童館の有効利用は欠かせないものになっています。

上述のような時だけでなく、保育園の子どもたちが児童館に遊びに行く時には、保育士は、絵本や紙芝居、パネルシアターを持っていき、児童館で子どもたちに見せるようにしています。この時に、児童

【キッズ館で行っている事業（抜粋）】

事業名	内 容
子育て体験	保育園に来園し、子どもと同年齢のクラスに体験入室して、ほかの子どもとかかわって遊び、その姿を見て子育ての楽しさを保護者が実感したり、保育士の働きかけを学んだりします。
給食体験	親子で、保育園の子どもたちと一緒に給食を食べ、子どもの年齢にあった給食の内容や調理方法、保育士の食べさせ方を学ぶ機会となります。
生活支援型 一時保育 「オアシスルーム」	在宅で子育てをしている保護者が、リフレッシュ、通院、買い物、観劇、冠婚葬祭やカルチャースクール、さらに臨時的・短期間の就労などの理由で一時的な保育を希望する場合に、時間単位の一時預かりを行い、保護者の子育ての負担軽減とリフレッシュを応援します。
子育て講座	園長が子育ての楽しさや育児方法、子どもが過ごすのに適した環境や玩具の選定、遊び方について保護者に知らせていきます。
園庭開放・ プール開放	保育園の園庭やプールを園児以外にも解放し、一緒に身体を動かして遊んだり、泳いだりして楽しめます。
食育講座	保育園で毎年行っている給食に関する保護者会を児童館内で行い、保育園の保護者と地域の母親が一緒に参加します。保育園給食の人気メニューの紹介や調理の実演、試食などを行い、子どもにあったメニューや調理方法、離乳食の作り方を知らせます。
保育園行事へのお誘い	保育園で行っている行事のうち、七夕や夏祭り、やきいも、餅つき、クリスマス会、豆まき、ひな祭りなど、家庭でなかなか経験できない、伝承行事へお誘いします。

館に遊びに来ている親子に「一緒にどうぞ」と必ず声をかけ、仲間に入りやすいような工夫をしています。それをきっかけとして、保育園の子どもたちと一緒に歌を歌ったり、体操をしたり、ゲームをしたりして遊ぶことができます。

また、時には保育園の子どもたちが覚えた歌や合奏を児童館に遊びに来ている親子に披露したりもします。保育園の子どもたちには発表の場ができ、達成感をもつことができますし、母親たちは「こういうことができるようになるのね」と子どもの成長の過程を知ることができます。

家庭で子育てしている母親にとっての一番の関心事は、「わが子の発達は大丈夫なのかしら?」「来年幼稚園に入園しても平気かしら?」ということですが。保育園に通っている子どもたちと遊ぶわが子の姿を見るだけでも、母親の育児不安は相当少なくなります。



▲地域のお母さんと園児の保護者が一緒に「離乳食保護者会」に参加しているところ

親子で過ごしている場合と、同じくらい年齢の子どもたちと遊んでいる時では、子どもの姿はずいぶん違うものです。そして、このようなタイミングで保育士は保護者に声をかけ、会話の中から心配事や不安を引き出し、もし問題があればその解消を図ります。このような自然なかかわりの中での育児相談が大切であり、就学前の子どもの育児に関する相談については、保育士や看護師の具体的な援助と子育てに関するノウハウが活かされています。

「キッズ館」の成果と今後の課題

保育園の保育士たちが、自然な形で児童館の利用者にかかわり、援助をしていることで、育児不安の解消が図られています。また、保育園がもっている子育てに関する知識や技術を、講座だけでなく何気ない場面で活かすことで、児童館を利用する母親たちの子育て力の向上に寄与していると考えられます。

一体化運営の二年目からは、保育園の子ども地域の親子も参加する行事などで、役割を分担して、一緒に行事を運営するようにしました。そのような中で、児童館専任の職員と保育園の職員とのコミュニケーションがいつそう良好になり、相談場面などの連携がスムーズに図られるようになってきました。

保育園の子どもも児童館の子どももみんな地域の子ども、また、お母さん、お父さんはみんな子育てを懸命にしている保護者だと、現在では職員がとらえています。このような職員の意識の変化に支えられながら、これからもいつそう「普段着の子育て支援」の充実を図り、地域子育て支援センターとしての役割を果たしていきたいと考えています。

(品川区立東五反田保育園園長・児童センター館長)